

## 受益者の皆様へ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「新興国国債オープン（1年決算型）（愛称 アトラス（1年決算型））」は、このたび、第11期の決算を行いました。

当ファンドは、新興国国債マザーファンドの受益証券への投資を通じて、主としてJPモルガン社のGBI-EM（ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット）ブロード・デバースィファイド指数を構成する新興国が発行する現地通貨建ての国債または政府機関が発行する債券、およびそれと同等の価値が得られるクレジット・リンク・ノート等に投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

### 第11期末(2018年8月13日)

基準価額	8,388円
純資産総額	496百万円

### 第11期

騰落率	△6.3%
分配金(税引前)合計	100円

(注) 騰落率は分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、岡三アセットマネジメントのホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>  
ホームページのファンド情報から当ファンドのファンド名称を検索することにより、運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。

# 新興国国債オープン （1年決算型） （愛称 アトラス（1年決算型））

追加型投信／海外／債券

作成対象期間：2017年8月15日～2018年8月13日

## 交付運用報告書

第11期（決算日 2018年8月13日）

 **岡三アセットマネジメント**  
〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1

お問い合わせは弊社クライアント・サービス部へ  
フリーダイヤル ☎ 0120-048-214（営業日の9:00～17:00）

[ホームページ]

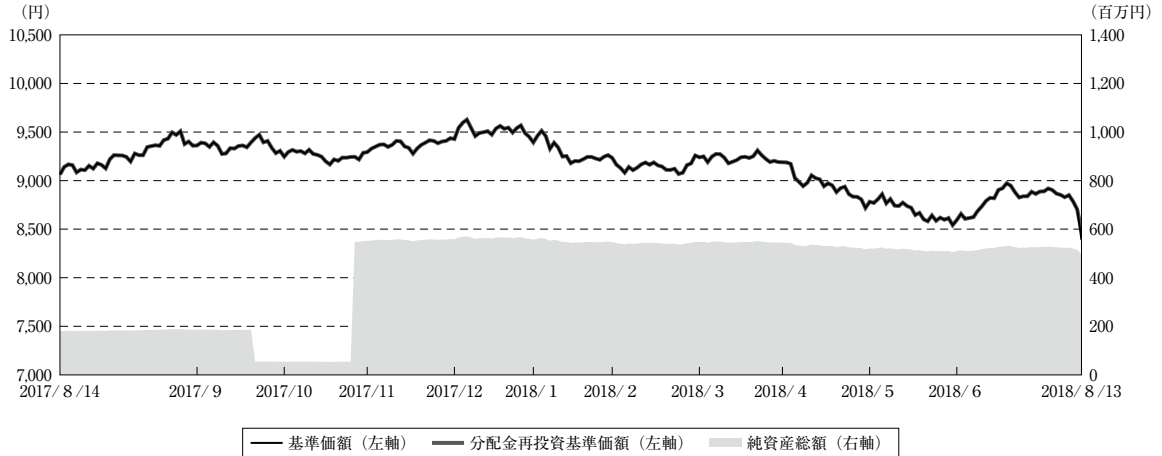
<https://www.okasan-am.jp>

※アクセスにかかる通信料はお客様の負担となります。

## 運用経過

### 期中の基準価額等の推移

（2017年8月15日～2018年8月13日）



期首：9,062円

期末：8,388円（既払分配金（税引前）：100円）

騰落率：△6.3%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首（2017年8月14日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

### ○基準価額の変動要因

当ファンドの主要投資対象である「新興国債マザーファンド」における主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

#### (主なプラス要因)

- ・現地通貨建て新興国債への投資により、安定的な利息収入を獲得したこと。また、債券利回りが上昇する投資国が多かったものの、ブラジルを筆頭にトルコ以外の投資国においては、保有債券の価格変動と利息収入の合計である債券要因がプラス寄与したこと。

#### (主なマイナス要因)

- ・トルコの保有債券の利回りが上昇し、価格が下落したこと。
- ・新興国通貨が対円で全面安となったこと。特に、トルコリラ、ブラジルリアルが対円で大幅に下落したこと。

## 1万口当たりの費用明細

（2017年8月15日～2018年8月13日）

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	円 128 (61) (59) (8)	% 1.400 (0.668) (0.646) (0.086)	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他)	18 (6) (1) (11)	0.198 (0.063) (0.012) (0.122)	(b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 その他は、クレジット・リンク・ノートの発行体に関する年間手数料等
合計	146	1.598	
期中の平均基準価額は、9,159円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2013年8月12日～2018年8月13日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2013年8月12日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2013年8月12日 期初	2014年8月12日 決算日	2015年8月12日 決算日	2016年8月12日 決算日	2017年8月14日 決算日	2018年8月13日 決算日
基準価額 (円)	9,270	9,506	9,356	7,952	9,062	8,388
期間分配金合計(税引前) (円)	-	100	100	100	100	100
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	-	3.6	△0.5	△13.9	15.2	△6.3
GBI-EM(ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット)ブロード・ディバーシファイド指数(円ベース)騰落率 (%)	-	9.0	5.4	△11.1	13.4	△3.9
純資産総額 (百万円)	108	91	77	53	179	496

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) GBI-EM (ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット) ブロード・ディバーシファイド指数 (円ベース) は当ファンドの参考指数です。参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する指数として記載しているものです。詳細につきましては、最終ページをご覧ください。

## 投資環境

（2017年8月15日～2018年8月13日）

## ＜新興国の国債市場＞

各投資国の金融政策、ファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）、政治リスクの違い等を反映し、2018年3月までは、国によりまちまちな動きとなりました。その後、米国の長期債利回り上昇、イタリアの政局不安、米中の貿易摩擦への懸念等を背景に、新興国から投資資金が流出し、多くの投資国で国債利回りが上昇（価格は下落）しました。また、一部の国では通貨安を受けて、利上げを余儀なくされたことも、利回りの上昇要因として働きました。期末にかけては、中央銀行に対する信認低下や通貨の急落を受けて、トルコ国債の利回りが一段と上昇しました。

## ＜為替市場＞

北朝鮮情勢など地政学リスクへの懸念が徐々に和らいだことに加え、世界経済の拡大や商品市況の上昇等を背景に新興国への資金流入が継続し、2018年1月までは、新興国通貨は総じて対円で堅調に推移する展開となりました。しかし、2018年2月に入ると、世界的な株安に伴うリスク回避の動きから、新興国通貨が対円で急反落することとなりました。その後も、米国の長期債利回り上昇、イタリアの政局不安、米中の貿易摩擦への懸念等を背景に、新興国から投資資金が流出し、4月下旬から6月末にかけて、新興国通貨が対円で下値を切り下げる動きとなりました。7月には新興国通貨が対円で下げ幅を縮小する場面も見られましたが、期末にかけては、中央銀行に対する信認低下や米国の経済制裁発表を嫌気し、トルコリラが対円で急落すると、新興国通貨が対円で全面安の展開となりました。この結果、当期間において、投資していた11通貨のうち、トルコリラを筆頭に9通貨が対円で下落する一方、マレーシアリングットとコロンビアペソの2通貨が対円で上昇しました。

## 当ファンドのポートフォリオ

（2017年8月15日～2018年8月13日）

## ＜新興国債オープン（1年決算型）（愛称 アトラス（1年決算型））＞

「新興国債マザーファンド」の受益証券を主要投資対象とし、同受益証券の組入比率を概ね99%台と高位で推移させました。

## ○新興国債マザーファンド

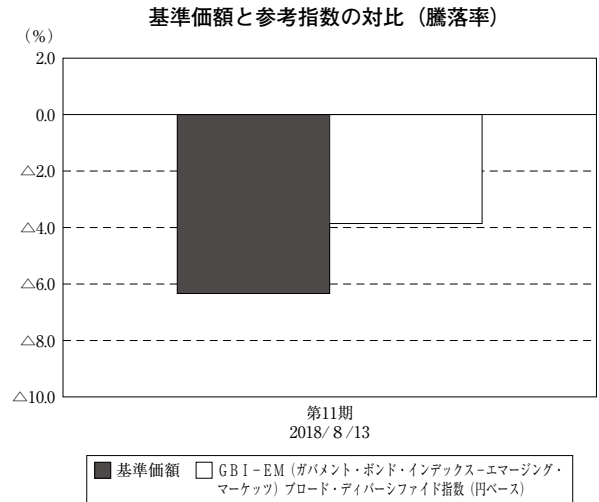
J Pモルガン社のGBI-EM（ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット）ブロード・ディバーシファイド指数を構成する新興国の中から、国債の利回り水準や流動性、国内総生産（GDP）、経常収支、外貨準備、インフレ率などのファンダメンタルズ等を総合的に判断し、投資国及び投資通貨を選定しました。当期間においては、11カ国、11通貨（日本及び円は除いています）に投資を行いました（インド、コロンビアへの投資はクレジット・リンク・ノート（CLN）\*を通じて行いました）。当期間における新興国の国債及び通貨の組入れは、投資環境に応じて、機動的に変化させました。また、2018年3月初めから下旬にかけては先進国国債の組入れ、2018年1月下旬から2月初めと5月下旬には一部通貨に対する為替ヘッジを行いました。期末時点の外貨の投資比率は83.8%、投資国上位は、ブラジル、インドネシア、メキシコ、ポーランドとなっています。前期末との比較では、南アフリカ、ポーランドの投資比率が上昇する一方、コロンビアの投資比率が低下しました。コロンビアに関しては、期末時点での組入れはありません。なお、当期間においては、トルコの平均投資比率は4%台前半と低めに維持しました。また、ファンドの金利変動リスクを測る尺度であるデュレーションは、期末時点で3.27年となり、前期末と比較し短期化となりました。

\*クレジット・リンク・ノート（CLN）は、現地通貨建ての新興国債または新興国の政府機関債にパフォーマンスが概ね連動する債券です。クレジット・リンク・ノート（CLN）は、米ドル建てで発行されていますが、ファンドに与える実質的影響を考慮し、連動先債券の国および通貨の情報に基づいて前述の分類を行っています。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

（2017年8月15日～2018年8月13日）

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。右記のグラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。



- (注) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。  
 (注) 参考指数は、GBI-EM（ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット）ブロード・デIVERSIFAID指数（円ベース）です。

## 主要投資対象国の金利と為替

発行国	債券利回り			為替レート		
	2017/8/14	2018/8/13	変化幅	2017/8/14	2018/8/13	変化率
インド	6.91%	7.96%	1.05%	1.72	1.62	△5.8%
インドネシア	7.19%	7.85%	0.66%	0.82	0.77	△6.1%
マレーシア	3.93%	4.06%	0.13%	25.50	27.02	6.0%
ポーランド	2.82%	2.55%	△0.27%	30.17	29.31	△2.9%
ロシア	7.74%	8.08%	0.34%	1.83	1.61	△12.0%
トルコ	10.75%	22.29%	11.54%	30.99	16.11	△48.0%
ブラジル	9.05%	10.03%	0.98%	34.25	28.61	△16.5%
コロンビア	6.55%	6.51%	△0.04%	3.67	3.75	2.2%
メキシコ	6.95%	7.79%	0.84%	6.15	5.77	△6.2%
ペルー	5.56%	5.49%	△0.07%	33.72	33.71	△0.0%
南アフリカ	9.36%	9.43%	0.07%	8.14	7.73	△5.0%

各国の債券利回りは、「GBI-EM（ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット）ブロード・ディバースィファイド指数」の情報に基づくため、償還年限は国ごとに異なります。また、ファンドが実際に投資している債券の利回りとは異なります。なお、各利回りとも該当日の前営業日のデータを使用しています。

為替レートは対顧客電信売相場の当日（東京）の仲値です。インドネシア、コロンビアに関しては、100倍して表示しています。

## 「新興国債マザーファンド」の主要投資対象国別組入比率

	2017/8/14	2018/8/13	変化幅
インド	9.5%	10.4%	0.9%
インドネシア	10.9%	11.2%	0.3%
マレーシア	5.4%	3.5%	△1.9%
ポーランド	6.7%	10.6%	3.9%
ロシア	4.3%	4.0%	△0.3%
トルコ	4.9%	2.6%	△2.3%
ブラジル	12.7%	11.4%	△1.3%
コロンビア	5.0%	-	△5.0%
メキシコ	10.9%	10.6%	△0.3%
ペルー	6.4%	7.8%	1.4%
南アフリカ	5.7%	10.3%	4.6%

比率は、「新興国債マザーファンド」の純資産総額に対する率です。クレジット・リンク・ノート（CLN）を組み入れている場合は、実質的に投資している国の比率として表示しています。

## 分配金

（2017年8月15日～2018年8月13日）

分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額としております。当期間におきましては、1万口当たり100円（税引前）の分配を行いました。なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

（単位：円、1万口当たり・税引前）

項目	第11期
	2017年8月15日～ 2018年8月13日
当期分配金	100
（対基準価額比率）	1.178%
当期の収益	100
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	6,317

（注）対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。



## 今後の運用方針

### （投資環境の見通し）

先進国の国債市場では、欧米の主要中央銀行による金融政策正常化の動きが、今後も利回りの上昇要因として働きやすいと見ています。しかし、米政権の外交面での強硬姿勢が、米中の貿易摩擦や中東情勢の緊迫化等、グローバル経済全般のリスク要因として意識され始めていることから、利回り上昇余地は限定的と考えています。新興国の国債市場に関しては、主要中央銀行による金融政策正常化の動きや上記のリスク要因を背景とする新興国からの投資資金の流出懸念が、利回り上昇につながる場面があると見ています。一方、先進国における金利先高観測がやや後退しつつあることから、メキシコやインドなど中央銀行が適切な金融政策運営を行っている国に関しては、引き続き中長期的な投資妙味が高いと判断しています。

為替市場では、トルコリラの急落の影響が他の新興国通貨にも波及し、期末にかけて新興国通貨が対円で全面安の動きとなりました。トルコに関しては、足元の自国通貨急落を受けて、民間部門を中心に外貨建て債務の返済問題が一層深刻化しており、短期間で抜本的な解決策が打ち出される可能性は低いと思われます。このため、当面は新興国通貨の下値不安が残る展開が想定されますが、期末にかけての新興国通貨の下落はやや行き過ぎと見ており、市場の落ち着きとともに、新興国通貨の買戻しが進行しやすいと思われます。また、今回のトルコリラの急落を受けて、投資国や投資通貨を選別する動きが一層強まる可能性が高いと見ており、通貨間のパフォーマンス格差が拡大しやすい局面が続くと考えています。

### （運用方針）

#### <新興国国債オープン（1年決算型）（愛称 アトラス（1年決算型））>

主要投資対象である「新興国国債マザーファンド」の受益証券の組入比率は99%台の高位を維持する方針です。ただし、追加設定・解約の動向等によっては組入比率が高位にならない場合があります。

#### ○新興国国債マザーファンド

新興国の国債及び通貨の組入れを高位に維持することを基本とします。ただ、市況動向によっては、ポートフォリオの一部を先進国の国債（米国、ドイツ、日本）や円のコール・ローン等へシフトする場合があります。また、投資環境の変化に応じてファンド全体の金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスクのコントロールを図る方針ですが、投資環境の急変が起きた場合には、委託会社の判断により為替ヘッジを行うことがあります。

## お知らせ

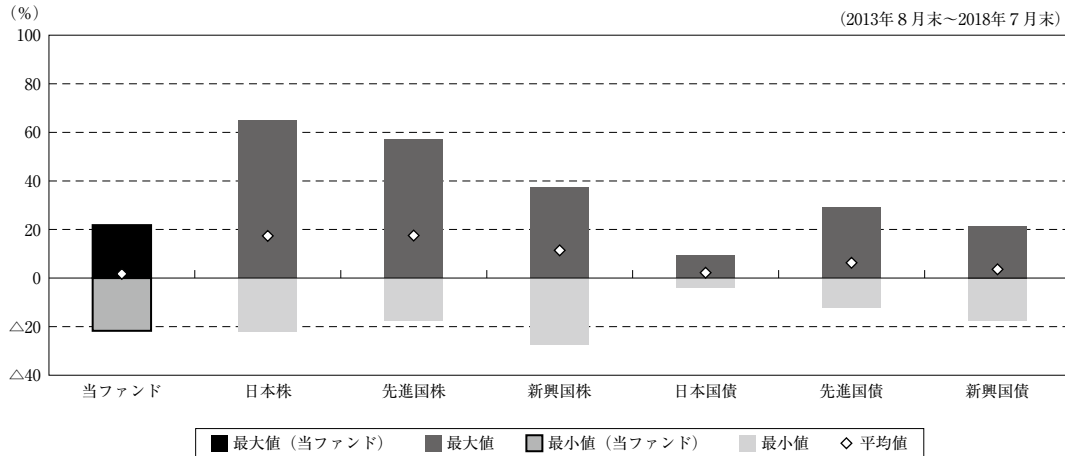
該当事項はございません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	2007年8月30日から、原則として無期限です。	
運用方針	新興国国債マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）の受益証券への投資を通じて、主としてJPモルガン社のGBI-EEM（ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット）ブロード・ディバーシファイド指数を構成する新興国が発行する現地通貨建ての国債または政府機関が発行する債券、およびそれと同等の価値が得られるクレジット・リンク・ノート等（以下、「新興国の国債等」といいます。）に投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	
主要投資対象	当ファンド	マザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。
	新興国国債マザーファンド	新興国の国債等を主要投資対象とします。
運用方法	当ファンド	マザーファンドの受益証券を主要投資対象とし、ファミリーファンド方式で運用を行います。
	新興国国債マザーファンド	投資にあたっては、JPモルガン社のGBI-EEM（ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット）ブロード・ディバーシファイド指数を構成する新興国の中から、利回り水準や流動性等を考慮して選定した新興国の国債等に、ポートフォリオの70%程度を投資します。（ステップ①） 次に、ポートフォリオの30%程度を、GDP、経常収支、外貨準備高等から総合的に判断して、ファンダメンタルズが良好であり、あるいはファンダメンタルズの改善が見込めることなどから、通貨価値の上昇が見込まれる新興国の国債等に投資します。なお、この場合に、ステップ①で投資した新興国の国債等に重複して投資する場合があります。（ステップ②）
分配方針	毎年8月12日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。繰越分を含めた配当等収益には、マザーファンドの配当等収益のうち、投資信託財産に帰属すべき配当等収益を含むものとします。 委託会社が、分配可能額、基準価額水準等を勘案のうえ分配金額を決定します。分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	21.8	65.0	57.1	37.2	9.3	29.1	21.4
最小値	△21.7	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4
平均値	1.7	17.3	17.5	11.4	2.2	6.2	3.6

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2013年8月から2018年7月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）

※各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2018年8月13日現在)

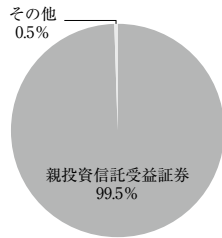
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第11期末
新興国債マザーファンド	99.5%
組入銘柄数	1銘柄

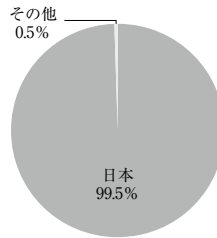
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

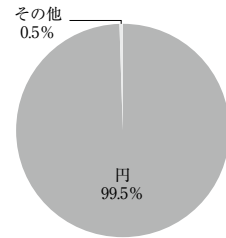
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。

(注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

## 純資産等

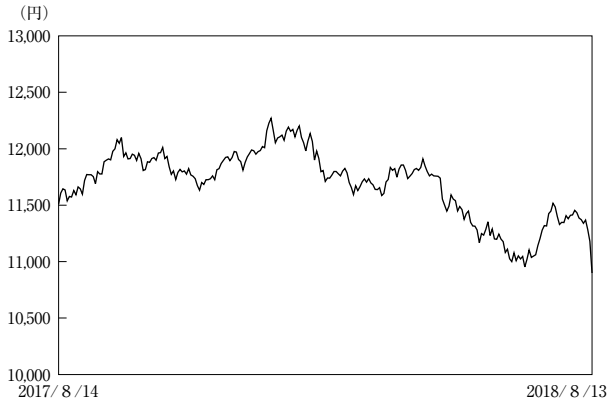
項目	第11期末
	2018年8月13日
純資産総額	496,880,086円
受益権総口数	592,373,966口
1万口当たり基準価額	8,388円

(注) 期中における追加設定元本額は537,409,171円、同解約元本額は142,925,322円です。

組入上位ファンドの概要

新興国国債マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2017年8月15日～2018年8月13日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) その他費用 (保管費用)	19 (7)	0.164 (0.063)
(その他)	(12)	(0.101)
合計	19	0.164

期中の平均基準価額は、11,688円です。

- (注) 上記項目の概要につきましては、運用報告書（全体版）をご参照ください。  
 (注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。  
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

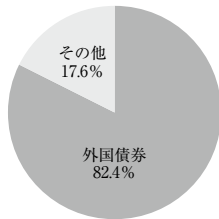
【組入上位10銘柄】

（2018年8月13日現在）

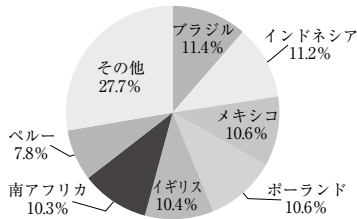
	銘柄名	業種／種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	CS INT(INRCLN) 8.4 2407A	普通社債券	米ドル	イギリス	10.4
2	REPUBLIC OF PERU 7.84	国債証券	ペルーソル	ペルー	7.8
3	POLAND GOVT BOND 5.75	国債証券	ポーランドズロチ	ポーランド	6.7
4	REP SOUTH AFRICA 10.5	国債証券	南アフリカランド	南アフリカ	6.4
5	MEXICAN BONOS 10	国債証券	メキシコペソ	メキシコ	6.1
6	INDONESIA GOV'T 11	国債証券	インドネシアルピア	インドネシア	5.9
7	BRAZIL NTN-F 10	国債証券	ブラジルレアル	ブラジル	4.4
8	POLAND GOVT BOND 5.5	国債証券	ポーランドズロチ	ポーランド	3.9
9	REP SOUTH AFRICA 8	国債証券	南アフリカランド	南アフリカ	3.8
10	MALAYSIA GOVT 5.734	国債証券	マレーシアリンギット	マレーシア	3.5
組入銘柄数		24銘柄			

- (注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。  
 (注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。  
 (注) 国（地域）につきましては発行国を表示しております。クレジット・リンク・ノートは発行体の所在地で表示しております。  
 (注) 米ドル建ての債券は、全て現地通貨建ての新興国国債にパフォーマンスが概ね連動するクレジット・リンク・ノートです。銘柄名に（INRCLN）とあるのはインドの現地通貨建ての国債に連動する債券です。  
 (注) クレジット・リンク・ノートは、連動先債券の信用リスクに加え、発行体である金融機関の信用リスクも負っています。当期末現在の発行体は、Credit Suisse Internationalです。

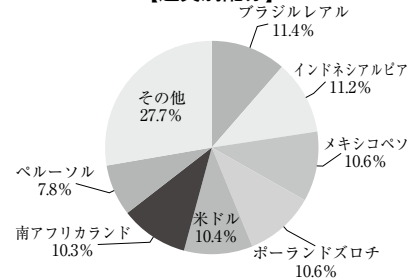
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



- (注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。  
 (注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。クレジット・リンク・ノートは発行体の所在地で表示しております。  
 (注) 通貨別配分につきましては、組入債券の通貨別比率を表示しております。クレジット・リンク・ノートにつきましては、米ドル建てで発行されているためドルで表示しております。

当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は、運用報告書（全体版）をご覧ください。

### ＜当ファンドの参考指数について＞

G B I - E M（ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット）ブロード・ディバーシファイド指数（円ベース）は、J.P. Morgan Securities Inc.が公表している新興国の債券のパフォーマンスを表す指数です。同指数は、J.P. Morgan Securities Inc.が定める条件により選ばれた、政府または政府機関の発行する、新興国の現地通貨建ての債券で構成されている時価総額加重平均指数で、2003年1月1日より算出されております。

### ＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

#### ○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

#### ○MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

#### ○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

#### ○NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

#### ○FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

#### ○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。